

上半期の全体の FDI 認可額が 17.7%増

マレーシア政府は 10 月 30 日、サービス業、製造業、第一次産業部門の上半期の全体の外国直接投資(FDI)、前年同期の 682 億リンギットから 17.7%増の 802 億リンギットを認可したと発表した。

国際貿易産業大臣は 1 月から 6 月の間に 2,346 案件を認可し、60,181 人分の雇用の機会を生んだと述べた。また主に製造業と第一次産業が急増し、前年同期 196 億リンギットから 265 億リンギットと 35.3%増であったと述べた。

一方国内投資は 537 億リンギットで前年同期 486 億リンギットから 10.5%増で、全体では 67%を占めた。

うち製造業向け FDI は 152 億リンギットで、前年同期比 63.1%の大幅増となった。国別では中国が 65 億リンギットでトップとなり、全体の 43%を占めた。2 位以下は韓国(16%)、日本(10%)、シンガポール(5%)、フランス(4%)の順となった。

セクター別に見ると、製造業向け投資認可額は 202 億リンギットで、認可件数は 287 件となり、25,165 人分の新規雇用の機会が見込まれている。

装置メーカーの澁谷工業、マレーシア、ペナン州に新会社設立

澁谷工業株式会社(本社：石川県金沢市)は 11 月 7 日、ペナン州バヤンルパスに Shibuya Kaijo (Malaysia) Sdn Bhd(シブヤカイジョー社)を設立したと発表した。10 月 1 日よりすでに営業を開始している。シブヤグループのマレーシア近隣地域における営業・サービス強化を図る。

シブヤカイジョー社の資本金は 100 万リンギットで、事業内容は同社が製造するワイヤボンダー製品の据付サポート、改造工事等のカスタマーサポートおよび営業サポートである。

マレーシア近隣地域は、電子部品メーカーの工場が多くあり、シブヤカイジョー社の半導体製造製品であるワイヤボンダーを数多く納入しているため、更なる販売機能の強化と部品供給やメンテナンスなどのサービス向上に向けて拠点の開設が必要と判断した。

シブヤカイジョー社は当面ボンダー製品のサービス拠点として活用する予定だが、澁谷工業のボトリングシステムやカップ麺の充填包装システムなどのパッケージングプラント製品やメカトロシステム製品もマレーシア近隣地域に納入していることから、将来、これらの製品の営業・カスタマーサポート拠点として活用することも視野に入れて運用する計画である。

GVA 法律事務所、TNY コンサルティングと業務提携

GVA 法律事務所(本社：東京都渋谷区)は 11 月 12 日、マレーシアのクアラルンプールにオフィスを構え、日本およびマレーシアの複数の弁護士を擁するリーガル・コンサルティング・カンパニーの TNY Consulting (Malaysia) Sdn Bhd(TNY コンサルティング社)との業務を開始すると発表した。現地でのサポートを含む充実したリーガルサービスの提供が可能となる。

これまでのマレーシアサービスは、東京オフィスに常勤しているマレーシア弁護士有資格者の支援の下で顧客企業のマレーシア進出や現地子会社管理等の法務サポートを行ってきたが、より最適な法務サービスを提供するため、日本人弁護士が直接クライアントから事業計画やビジネス内容をヒアリングし、クライアントのニーズに沿った解決・提案方針を立案し、東京オフィスのマレーシア弁護士有資格者や TNY コンサルティング社の現地専門家との業務連携により、グローバル法務サポートの拡充を図る。

三栄コーポレーション、KL 近郊に家具インテリア工場を設立

株式会社三栄コーポレーション(本社：東京都台東区)は 11 月 12 日、主要事業の一つである家具事業の強化を図り、マレーシアに家具インテリアの製造工場を設立し、来年初めの稼働を予定していると発表した。

三栄コーポレーションおよびその関係会社では、長年に亘り世界各地に家具を提供してきた。市場のリクエストに応える品質、納期の確保のために蓄積した製造のノウハウをさらに活用し、次のビジネス開拓のための開発力、機動力も向上させるため、家具インテリア工場の運営への進出を決定した。なお、三栄グループは中国、広東省に家電製品を製造する工場を 30 年来に亘り運営している。この家電工場で積み重ねてきた工場運営のノウハウと経験も活かしながら、数年後には売上高 20 億円規模の工場に成長させるよう推進する。

工場はクアラルンプール近郊に設立し、建屋敷面積は約 4,000m² で、投資額は 5 億円程度を予定している。

IHI、固体バイオマス燃料製造事業参入

株式会社 IHI(本社：東京都江東区)は 11 月 14 日、マレーシアに IHI Solid Biomass Malaysia Sdn Bhd (ISBM)を設立し、パームヤシ空果房(EFB: Empty Fruit Bunch)由来の固体バイオマス燃料である EFB ペレットの製造、販売、輸出事業を本格化すると発表した。

ISBM 社の資本金は 4 億 5 千万円で、マレーシア国内における燃料製造販売および輸出を行う。IHI 社は、EFB を固体バイオマス燃料として有効利用するため、高品質な低灰化 EFB ペレットに変換・量産する手法を確立した。またマレーシアにおいて、パーム廃棄古木(OPT: Oil Palm Trunk)ペレット製造、およびパーム搾油排水(POME: Palm Oil Mill Effluent)処理の実証事業を展開しており、パーム油の製造過程における廃棄物の活用および環境負荷低減に取り組んでいる。さらに IHI 社は、マレーシアの大手印刷会社 Nextgreen Global Berhad(NGGB)および野村ホールディングス株式会社(本社：東京都中央区)とパーム残渣の活用に関する協業検討の覚書を締結した。

IHI グループは、マレーシアの主要産業のひとつであるパーム産業のサステナビリティ(持続可能性)を高めることを目指すと共に、日本を中心に需要の大きな拡大が見込まれる固体バイオマス燃料の安定供給の貢献を目指す。